



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だ

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月。9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2010年11月現在、川崎2、横浜5、県域10 計17名で活動中!!

～ '10 神通研集会報告⑤ ～

◎「伝わりやすい日本語」

行政から発表された災害情報の中から最も必要なことは何かを選択し、言い換える。

「今朝、5時43分頃、関東地方を中心として、広範囲で強い地震がありました。地震の規模を示すマグニチュードは7.2。津波の心配はありません。今後も大規模な余震が起こる恐れもありますので、地震の揺れで壁に亀裂が入っているなどしている建造物には近づかないようにしてください。現在、横浜市全域で断水や停電が起きていて、市民生活は麻痺しています」



例：

「今朝、関東地方で大きな地震がありました。

津波はありません。

今後も余震に注意してください。

地震で壊れた建物には近づかないでください。

現在、横浜市では水道の水、電気が使えません」

ポイント

- ①誰にでも伝わりやすく、皆が行動しやすい文章にする
- ②場面・対象者を考えて作る
- ③どんな人に何を伝えたいのかをはっきりイメージする
- ④主語を省くという日本語の特徴を掴む
- ⑤重文、複文は使わず主語・目的語・述語を明確にする
- ⑥災害時に良くつかわれる語彙はそのまま使う
- ⑦書き出す時は、意味を掴んで自分の言葉で書く
- ⑧場合によっては、目的・理由などの情報の背景も伝える

～ 定例会 11/28(日) ～

11/13～14日に茨城で開催された関東通研集会分科会「手話サークル」報告。

各県共通の悩みは、サークル会員及びサークルに参加するろう者の減少。

最近の傾向として難聴者・中途失聴者のサークル入会のさまざまな課題。

日本語を手話に換える時にも健聴者同士でわかりやすく伝えるためにも必要な「伝わりやすい日本語」について話し合いました

【次回定例会】'10/12/25(土)

10:10～12:00

県民活動サポートセンター 707

～サークル研究班メンバーのささやき

最近、日本語教育の仕事が増えてきた。

無意識に使っている日本語を意識化する作業は苦しい。

作る、盗む、落とす、食べる、の中で仲間はずれはどれか。

「この本を読んだら分かりますよ」「この本を読むと分かりますよ」「この本を読めば分かりますよ」のニュアンスの違いは何か。

なんとなくではなく、日本語教師はきちんと説明できなくてはならない。

とはいえ、手話表現にも応用が可能なので、そういう意味で得するし、楽しくもある。

～毛利 元貞～